

UN→DOと建築

UNDO AND ARCHITECTURE

令和3年度 関東甲信越建築士会ブロック会 青年建築士協議会 茨城大会 報告書

■開催日 2021年6月19日(土)

■会場 リモート開催 運営本部 茨城県水戸市 ウエストヒルズホテル 3F 桜の間

■「大会テーマ」

UN→DOと建築

UNDO AND ARCHITECTURE

◎第一分科会テーマ こんな時代だけど「どうする？」 活動報告
◎第二分科会テーマ こんな時代だけど「共有しよう」 BEN-TO と 建築
◎第三分科会テーマ こんな時代だけど「前へ進もう」 VR技術と建築・社会

■大会実施行程 大会実施行程 6月19日(土)の1日間

■対象 関東甲信越建築士会ブロック会に所属する青年建築士
(全国の建築士会に所属する青年建築士等も参加可)

■参加人数 500名(茨城スタッフ含む)

■参加来賓

水戸市長		高橋 靖	様
(公社)日本建築士会連合会	会長	近角 眞一	様
(公社)日本建築士会連合会	青年委員長	稲見 公介	様
長野県建築士会	会長	荻原 白	様
新潟県建築士会	会長	田中 隆司	様
千葉県建築士会	会長	竹江 文章	様
東京建築士会	会長	古谷 誠章	様
群馬建築士会	会長	田仲 豊	様
山梨県建築士会	会長	雨宮 健一	様
神奈川県建築士会	会長	上原 伸一	様
栃木県建築士会	会長	柴田 道夫	様
埼玉建築士会	会長	江口 満志	様
茨城県建築士会	会長	柴 和伸	様

2021年 関東甲信越建築士会ブロック会 青年建築士協議会
茨 城 大 会

令和3年度 関東甲信越建築士会ブロック会 青年建築士協議会 茨城大会 全体会議（式典） 報告書

新潟県建築士会 平山 貴士

関ブロ茨城大会は例年と異なり Zoom や、YouTube Live を使ったリモート配信をする形での開催となった。茨城大会は新型コロナウイルスによる社会的影響が大きく、現地に会員を集めて開催できないとの理由から関ブロ大会を辞める(UN)ではなく、新しい形でやる(DO)という趣旨の大会であった。開会に先立ち開催地である水戸での司会者の紹介、水戸市長の挨拶から始まり、大会の開幕となった。

第1分科会、第2分科会、第3分科会が1日で行われ、最後に全体会議と各分科会の結果発表が行われた。例年と異なり大懇親会やエクスカージョンはプログラムに無かったが、初めての試みであるオールリモート配信による関ブロ青年大会であった。

また、配信会場からのライブ感ある配信と、事前に録画された動画を組み合わせる事で、参加者は見ているだけではなく参加している雰囲気が出る配信であった。

来年度の長野大会の紹介が長野大会実行委員長の高柳理事により行われ、今大会の実行委員長である櫻井理事の挨拶により閉幕を迎えた。



令和3年度 関東甲信越建築士会ブロック会 青年建築士協議会 茨城大会
第1分科会 報告書

埼玉建築士会 島田義信

第1分科会は、各都県の活動報告が主となっており、少しでも多くの方に参加していただき素晴らしい発表内容を聞いていただく、また自都県での活動の参考にと願って例年開催されております。

今大会のテーマは「UN→DO と建築」です。2020年初頭より世界中で猛威を振るっているコロナウィルスの影響下においてこれまで、直面したことのない状況にあります。社会的な閉塞感や、先の見えない状況に置かれた今、「どうするのか」という所を我々建築士が考えていきたいという想いのなか、感染拡大防止の観点から、参加者は集まることはなく、YouTube や Zoom を利用した、オンライン配信を用いた形で開催されました。事前収録だからこそできる趣向に凝った動画は、今まで以上に人の心を惹きつけ印象に残るプレゼンテーションでした。評価方法は参加者が「自分の都県に持ち帰ってやってみたい」という観点で特に、期待感、将来性のある提案への評価をし、YouTube の「グッド」の数で競われました。結果、「グッド」の数の多い順に金メダルは長野県、銀メダルは同票で新潟県と山梨県ということでしたが、多様な活動内容は、各都県に持ち帰るにあたりメダルの色に関係なく各都県の活動の参考になったのかと考えています。

発表内容に関しては全体として、大きく二つの活動の方向性がみられました。一つ目は、学生や子供向けの活動で将来の建築士を育て建築に興味もってもらう活動です。二つ目は、コロナ禍でも積極的な活動を行う屋外開催やリモート開催の活動です。

一つ目の方向性としては高校生に焦点をしばった東京都の活動は特筆すべき活動です。高校生へ向けたワークショップは子供向けの視点とは異なった、現実的で具体的なテーマの内容、そして受験予備校とのコラボレーションなど多くの新しいチャレンジされた事業と考えられます。二つ目の方向性としてはコロナ禍でも活動可能な屋外活動という観点で神奈川県「フォトロゲ」も特筆すべき活動です。屋外の活動でスポットを巡りながらゲーム性をもたせエリアの建築に興味をもたせ、かつ、建築士会の活動を知ってもらう内容でした。前回大会の発表でも「フォトロゲ」でした。時間をかけ、とても綿密な事前の資料づくりも大切だと感じました。コロナ禍でなくとも、各都県で持ち帰ってもらうことも可能だと考えます。その他、地方活性化が叫ばれるなか新潟県の学生を地域の会社へ就職斡旋する活動は、地域で活躍できる人材を育て建築業界を盛り上げる観点からとても大切な活動だと考えられます。コロナ感染拡大防止を踏まえ、継続して活動できることも良いことだと考えます。

最後に、準備や運営にご尽力いただきました茨城県建築士会の皆様に感謝申し上げますとともに、参加者の皆様が各建築士会の多様な活動を把握し、発展的な未来の建築士会の活動を考えることを願い報告とさせていただきます。

令和3年度 関東甲信越建築士会ブロック会 青年建築士協議会 茨城大会
第2分科会 報告書

栃木建築士会 安藤 崇之

第二分科会は、コロナ禍の社会情勢において行動が制限されているなか、「他県の取り組みを自県に持ち帰る」ことを目標として、他県を知るという点に着目した映像作品での開催となりました。お昼時間のプログラムという事もあり、「食」と「建築」を組み合わせた「BEN→TOと建築」という題目で、各都県の魅力的な食と建築が紹介され、コロナウィルス感染症収束後の各都県への訪問意欲を強く掻き立てられる内容でした。

各都県のこれぞというご当地の「食」と「建築」を組み合わせた7分間の番組により、10都県をめぐる旅を疑似体験することが出来ました。TV番組さながらのリポートやカメラワーク、編集まで、初めてのWEB開催と思えないほどのクオリティで、まるで旅番組を見ているような感覚でした。

各都県の歴史的建築物や近代建築、新建築に加えて、リノベーション建築や観光名所といった新旧さまざまな建築物の紹介とご当地グルメや名産を使用したお弁当などのローカルな情報が満載でした。各都県が設定したタイトルに沿って「食」と「建築」を紹介してくれましたが、支部毎に紹介を行った県もあり、県を代表するような建築や有名なお弁当だけでなく、支部毎の魅力を知る事が出来ました。

それぞれ、別のものにとらえていた「食」と「建築」ですが、第二分科会の映像を通して、両者のつながりを強く感じる場面もあり、新たな視点で建築を考える良い機会となりました。

まだまだ、コロナウィルス感染症の収束が見えない状況ではありますが、以前のように気軽に県をまたいだ移動が可能になりましたら、是非、直接現地に足を運んで今回紹介された魅力的なご当地の「食」と「建築」を楽しんで頂きたいと思います。



第3分科会は、関ブロ青年協企画としてブロック活動創造部会を中心に企画・準備を行い、『VRと我々の生活環境との関わり合い』について幅広く学べる場となりました。

新型コロナウイルスにより、昨今、働き方や人との接し方の変革が求められ、リモート会議や遠隔指示を導入する中、バーチャル空間VRが実用的なツールの一つとして注目されています。

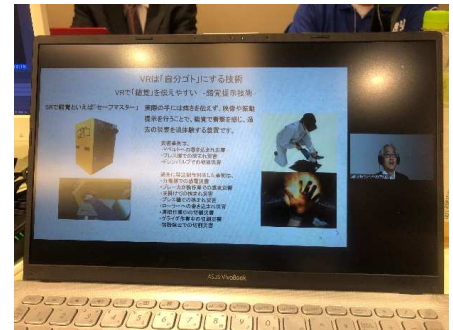
講師には日本バーチャルリアリティー学会理事でもある株式会社ソリッドレイ研究所の今村伊知郎先生を迎え、前半は講演を、後半はパネルディスカッションを行いました。

講演では、VRとはどのような技術なのか、VRの構成要素とは何か、という基本的な内容をはじめ、VR技術が役立っていることの出来る事例として、①災害対応訓練とVR②不動産テックとVR③運動とVR④合意形成⑤音のVR、を主なテーマとして、VR技術が現時点で出来ること、苦手なことなどを多くの実施例と合わせて分かり易く説明して頂きました。結局のところ、「VR技術の向上」とは「人間を知ろう」に行き着くというお話は印象的でした。

パネルディスカッションでは、株式会社コンピュータシステム研究所の坂井俊雄先生と茨城県東海村役場の近藤康範様にもゲスト参加して頂き、建築実務の観点から今後の展望などについて意見の交換をして頂きました。VRの成り立ち、データの種類の違い、CADとVRと現場、それぞれのデータなどを具体的なプレゼンソフトを例に紹介して頂くと共に、「せっかく3Dで検討しても最後は2D図面」「2Dの良いところを残しつつ3D活用は思いのほか鈍い」「VRはあくまでプレゼンツールの先にあるもの」など実務者としての意見を交わされていました。より現場に役立つVR技術をどのようなサービスに仕上げていくか？VRの要素技術である3Dの現場での活用にはまだまだ進化の必要があるようです。最後に今村先生より建築士に望むこととして、「こういったVRが欲しい」と言って欲しいとの要望も頂きました。

今回約120~130名の方がYoutubeで視聴参加頂きました。リモートでは伝えきれない部分もあり、例年のような開催であれば、現地でVRを体験して頂きたかったところですが、リモートで出来る限りのことはお伝え出来たかと思えます。今後、参加された方の仕事や生活に於いて、この講演が活かされ役に立つ時が来ることを願います。

最後にご協力を頂きました講師の先生、ディスカッションに参加頂きました皆様、準備や運営にご尽力頂いた茨城建築士会の皆様、無事開催出来ましたことを感謝申し上げます。



令和3年度 関東甲信越建築士会ブロック会 青年建築士協議会 茨城大会
参加者一覧

	人数
長野県建築士会	80名
新潟県建築士会	69名
千葉県建築士会	93名
東京建築士会	36名
群馬建築士会	27名
山梨県建築士会	28名
神奈川県建築士会	19名
栃木県建築士会	17名
埼玉建築士会	80名
茨城県建築士会	43名
日本建築士会連合会	8名
合計	500名